

## 学生大使 実施報告書

氏名:数馬 望生

学部・学科(コース)・学年:工学部・建築デザイン学科

派遣先大学:新モンゴル学園

派遣期間:2025/02/26~2025/03/11

### 1 日本語教室での活動内容

すでに大学を卒業し、4月から日本に留学予定の人たちなど日本語上級者、日本語初心者に分かれてテーマ別に発表しました。私は、初心者むけに興味について、上級者向けに日本の若者・一人暮らしについて発表しました。初心者向けに発表する際には、簡単な日本語を使いながらゆっくり話すように心がけました。スライドはひらがなと英語で作り、上級者には、4月から日本に行く人が多かったため、一人暮らしをテーマに日本で暮らす際の注意点やアドバイスを発表しました。その他には、日本語クラブに所属する中学生と、高校生と交流しました。中学生とは、事前に決めてあった質問にそって話し、回答できたらシールをその都度貼りました。シールは日本語が書いてあるシールを準備していたのでそれを使用しました。みんな日本語のレベルが高く会話してみても驚きました。高校生との活動は日本人1人に対し、5人1グループが5分ごとに回り、会話するという活動内容でした。私のお題は、どの国に旅行したいか・バイトはしているか・自由会話でした。ゆっくり喋ったりジェスチャーをしたりしながら、自分だけ喋るのではなく、みんなに質問しながら高校生側も日本語を喋る機会を取れるように工夫しました。

### 2 日本語教室以外での交流活動

モンゴルの旧正月である「ツァガーサル」の期間中はホストファミリーと過ごしました。3日間は親戚の家に行き挨拶回りをしました。ホストのおばあちゃんが私にモンゴルの民族衣装であるデールを作ってください、みんなでデールを着て1日に4から7家族ほどずつ親戚の家を周りました。モンゴルの冬はとて厳しく、ツァガーサルは厳しい冬を無事乗り越え私は元気ですよ、あなたは元気ですか?と挨拶しに行くのが始まりとなって、親戚の家に挨拶をしてまわります。親戚の家に挨拶をしに行くことは相手を尊敬していることも表していると教えてもらいました。ゲルに住んでいる親族にも挨拶しに行きました。ゲルという移動式住居がモンゴル人の距離の近さ、部屋が狭くても生活でき、家の物がとても少ないことにつながっているのだと感じました。ホストファミリーは子供6人の8人家族で、TさんとTさんの弟が英語を話せたので、基本英語での会話でした。そのほかには翻訳機を使用したり、通訳してもらったりとコミュニケーションも積極的に取りました。自分がモンゴル語の単語を覚えることもコミュニケーションの幅が広がり、とても楽しいと感じました。Tさんは日本語初心者だったため、日常会話で少しずつ日本語の単語を教えたり、自分がモンゴル語の単語を覚えたりしました。ホストファミリーの小さい子供達には日本の手遊びを教えたところ、最終的には一緒に歌えるまで覚えてくれました。その他にあやとりや折り紙も教え、一緒にやりました。Tさんのクラスメイトとも友達になれました。その子は自分から仲良くなりたくて話しかけに行っていたので、友達になれてとても嬉しかったです。モン

## 【学生大使 実施報告書】

ゴル人は人と人の距離がとても近く、初めは戸惑いでしたが、慣れるといいなと感じます。学校がある日のお昼はモンゴル人の人たちとお昼を食べに行ったり、夜は観光しに行ったりしました。Tさんが車を持っていたため、いろいろな場所に連れて行ってもらいました。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

自分が想像しているモンゴルに実際に行ってみて、何が同じで、何が違うのか知ることと、友達を作ることが参加目標でした。実際に参加してみて、首都ウランバートルはかなり都会で、でもウランバートルを少し出ると、草原と山が広がっており、それは想像とかなり一緒でした。また、郊外にはゲルが想像以上に沢山あり、ゲルは今も普通の住居として使われていることに驚きました。友達を作るという点では、ホストが男性だったため初めは仲良くなれるか不安でした。初日はモンゴルの英語の発音に耳がなれず、会話も続かなく、不安になりましたが、先生に相談するなどして、コミュニケーションをとるように頑張りました。3、4日後にはかなり会話できるようにもなり、最終的にはとても仲良くなれたと感じます。諦めずコミュニケーションをとって良かったと思っています。Tさんのクラスメイトの女の子とも友達になれたこともとても嬉しかったです。モンゴル人は予定を立てずに生活するため、いろいろなことが直前に決まるなど、日本に比べてとても自由です。それについては知らなかったのも、とても面白かったです。沢山新しいことを知れたり、友達も作れたりと目標は達成できました。

### 4 プログラムに参加した感想

プログラムに参加してとても良かったと感じています。今回はツァーサルと日程が重なり、日本語教室の活動は少なくなりましたが、普段体験できないことを経験することができました。ツァーサル期間中は毎日モンゴルの民族衣装であるデールを着ていました。人、言語、生活、衣装、食事など様々な角度でモンゴルとはどのような国でどのような習慣、伝統があるのか肌で感じることができました。二週間は実際に過ごしてみるとあっという間でした。この二週間で自分の世界が広がったと感じています。モンゴルで生活してみると、日本は窮屈だと感じる場面も多くあります。もう少し自由に生きるのもありだと感じました。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回、参加してみて得るものがとても沢山ありました。元々国際交流にはとても興味を持っていて、普段からチューターをしたり、留学生と交流したりしていました、今回のモンゴルが自分にとって初海外で、自分が今まで努力してきたものが今回とても役立ったように感じます。今後の留学のために準備してきた英語や、コミュニケーション能力が今回のモンゴルでの活動をさらに楽しいものにしたと感じています。今後はまたモンゴルに行きたいと考えています。また、4年生次に1年間の留学をしたいと考えています。自分が想像していた以上に他国で得る経験は素晴らしいものでした。今後も国際交流を積極的に行っていきたいと思っています。

## 6 現地での活動写真

### 写真1

凍った川の上でホストファミリーたちと



### 写真2

ホストファミリーの従兄弟たちと



写真 3

高校生たちとの交流する様子



写真 4

アグラグ・ブテーリーン寺院

